



# さいほ びわ湖の魚の採捕体験

学習のねらい	
<p>○魚の採捕を行うことで、びわ湖の魚介類について興味・関心を持つことができる。</p> <p>○採捕した魚の特徴を比べ、個体数の比較や食性などを調べることができる。</p> <p>○採捕の結果からびわ湖の生態系の一端を知り、びわ湖の魅力や課題を見つけることができる。</p> <p>○外来魚回収の意義を考えるとともに、命の尊さを感じることができる。</p>	
準備物	
うみのこ船内で準備できるもの	乗船校で準備するもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・採捕用かご網（もんどり） 5</li> <li>・ゴミ袋</li> <li>・丸おけ・観察用薄型水槽 12</li> <li>・特別採捕旗</li> <li>・<u>（タブレット PC）</u></li> <li>・バケツ</li> <li>・観察シート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軍手</li> <li>・外来魚回収用ポリ袋</li> <li>・ねりえさ</li> <li>・ワークシート等 記録用紙</li> </ul> <p style="text-align: center;">＜採捕前日、日中にかごあみを仕掛ける必要がある＞</p>
主な学習の流れ	ポイント（○）及び留意点（☆）
はじめ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. かご網を仕掛ける。</li> <li>2. 本学習のめあてを確認する。</li> <li>3. びわ湖の魚介類の漁獲量の推移をみて、在来種の減少を知る。</li> </ol>
なか	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. かご網を引きあげる。</li> <li>5. 採捕した魚の観察をする。</li> <li>6. 在来魚と外来魚を仲間分けしたり、集計したりする。</li> <li>7. 在来魚は放流し、外来魚は回収ボックスに入れる。</li> </ol>
おわり	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 本学習のまとめをする。</li> </ol>

（※1）活動場所・・・停泊港 大津港（回収ボックス有）・長浜港（有）・琵琶湖大橋港（無）・今津港（無）・彦根港（有）・長命寺港（有）（※2）実施時期・・・4月～11月が好ましい